

# JAPIA NEWS

2015  
9・10

隔月刊  
(通巻709号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

**特 集**

## 世界標準を加速する メガサプライヤーの誕生と 日本オリジナリティ

委員会部会だより

中小企業施策委員会

特色ある技術を多方面に紹介  
中小会員企業を支援

会員企業紹介

太平洋精工株式会社



# 省空間

コンパクトな空間に  
最新技術を凝縮。  
高い生産性と高剛性なフレームを  
実現したサーボタンデムライン。



## DSF-N1-1500A

### コンパクト高速サーボタンデムライン

生産能力は  
大型トランスファ  
プレスラインと同等以上。  
しかも設備費・納期は  
2分の1以下! (※)

(※) システム仕様等により異なる場合もあります

アイダエンジニアリング株式会社

TEL 042-772-5231 (代表) 本社 〒252-5181 神奈川県相模原市緑区大山町2-10

HPリニューアルしました

<http://www.aida.co.jp/>

# タイ国—ASEANの 自動車ブーム推進

タイ国は世界でトップ10の自動車輸出国であり、1トンピックアップトラック製造においては、世界のトップです。東南アジアにおいても自動車製造業リーダーとなり、最大の車両組立及びASEAN最高品質の部品製造機能を持っています。

2015年のASEAN経済共同体 (AEC) においては、日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インドとの自由貿易協定 (FTAs) により、タイ自動車産業の製品や部品の課税を控除されます。また、タイの競争力のある労働力・用地・設備コストと共に、強力な政府のサポートとTAX控除策で、タイの自動車産業の成長を推進していきます。

**1.8 million**  
Pick-up Truck

in **2012**



**60%**  
grow up

2011

## タイ国有数の展示会



**Thailand International Truck Show 2015**  
17-19 September 2015 | [www.tit-show.com](http://www.tit-show.com)



**Metalex 2015**  
18-21 November 2015 | [www.metalex.co.th](http://www.metalex.co.th)



**The 32<sup>nd</sup> Thailand International Motor Expo 2015**  
2-13 December 2015 | [www.motorexpo.co.th](http://www.motorexpo.co.th)



**INTERMACH 2016**  
11-14 May 2016 | [www.intermachshow.com](http://www.intermachshow.com)



**Subcon Thailand 2016**  
11-14 May 2016 | [www.subconthailand.com](http://www.subconthailand.com)



**Assembly & Automation Technology 2016**  
22-25 June 2016 | [www.assemblytechexpo.com](http://www.assemblytechexpo.com)



**Industrial Component & Subcontracting 2016**  
22-25 June 2016 | [www.components-subcon.com](http://www.components-subcon.com)



**Intermold Thailand 2016**  
22-25 June 2016 | [www.intermoldthailand.com](http://www.intermoldthailand.com)



**Surface & Coatings 2016**  
22-25 June 2016 | [www.surfaceandcoatings.com](http://www.surfaceandcoatings.com)



**Automotive Manufacturing 2016**  
22-25 June 2016 | [www.manufacturing-expo.com](http://www.manufacturing-expo.com)



**NEPCON 2016**  
22-25 June 2016 | [www.manufacturing-expo.com](http://www.manufacturing-expo.com)



**Interplas Thailand 2016**  
7-10 July 2016 | [www.interplasthailand.com](http://www.interplasthailand.com)

## ビジネス目的でのタイ訪問グループへのインセンティブ



### タイでの展示会出展者とのマッチングにおける特別キャンペーン

ビジネスマッチングを達成したビジネス団体1グループにつき1,000 USDのボーナス

[connectbusinesses@tceb.or.th](mailto:connectbusinesses@tceb.or.th)



地球を舞台にしたスポーツは、  
自分勝手なルールではゴールできない。

デンソーは、この惑星を走るランナーとして  
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ  
この惑星を技術で守りたい。

**DENSO**

# おかげさまで、70周年。

## 事業内容

### ▼自動車部品事業

排気系部品、ボデー骨格部品、  
内外装機能部品、足回り部品、  
燃料系部品

### ▼情報環境機器事業

### ▼外販設備、金型事業

**70**  
**FUTABA**  
70th Anniversary  
since 1945

**フタバ産業株式会社** 岡崎市橋目町字御茶屋1番地

**Koito**



## 安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして  
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

### 株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号  
TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>



**WHY?  
NGK?  
SPARK PLUGS**



信頼で選ぶなら

**6  
倍**



世界初の「ルテニウム配合中心電極」により、一般プラグに比べ約6倍の走行耐久性を実現(当社比)。更に「白金突き出し+オーバル形状外側電極」により着火性も向上。あらゆる性能においてNGK史上最強のスパークプラグです。

- ルテニウム配合中心電極
- 白金突き出し
- オーバル形状外側電極

**NGK  
Premium RX**  
— プレミアムRXプラグ —



レーシングドライバー 佐藤琢磨

**NGK | NTK** 日本特殊陶業  
スパークプラグ | ニューセラミック

<http://www.ngkntk.co.jp/>

# YOROZU

製品の開発・設計・生産から設備の製造まで一貫した生産体制

## 《企業ビジョン》

サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し  
“ヨロズブランドを世界に”

## 《営業品目》

- 自動車部品
  - サスペンション部品 (サスペンションメンバー、リンク等)
  - ボディ部品 (ボディプレス部品等)
  - ブレーキ部品 (ブレーキペダル等)
  - エンジン部品 (オイルパン、エンジンマウントブラケット等)
- 生産設備、金型
- 農機具部品



## 株式会社 ヨロズ

<http://www.yorozu-corp.co.jp/>

本社 / 横浜市港北区樽町三丁目7番60号 Tel 045-543-6800 Fax 045-543-7910  
国内 / 栃木県小山市、大分県中津市、愛知県名古屋市、山形県鶴岡市、山形県東田川郡  
海外 / アメリカ (テネシー州、ミシガン州) メキシコ (アグアスカリエンテス州、グアナファト州)  
タイ (ラヨン県) 中国 (広東省、湖北省) インド (タミルナドゥ州) インドネシア (西ジャワ州)  
ブラジル (リオデジャネイロ州)

「企業は人」  
環境が変化しても  
長し続ける  
人材を育てる  
人材育成

### 人材育成制度

037 社

### 目標設定研修

075 回

### 評価者能力研修

540 回

### 昇格者選抜評価

143 回

人事・人材開発支援の

## 株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F  
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002  
E-MAIL [info@synergy-power.co.jp](mailto:info@synergy-power.co.jp)

### 主な実績企業

アイシン・イーアイ株式会社  
アイシン化工株式会社  
アイシン機工株式会社  
アイシン軽金属株式会社  
アイシン・コムクルーズ株式会社  
株式会社アイシン・コラボ  
アイシン精機株式会社  
アイシン辰栄株式会社  
アイシン高丘株式会社  
NTN 株式会社  
株式会社キャタラー  
埼玉工業株式会社  
株式会社ソミック石川  
津田工業株式会社  
株式会社デンソーエアシステムズ  
株式会社デンソーセールス  
デンソーテクノ株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
株式会社豊田自動織機  
浜名湖電装株式会社  
浜名部品工業株式会社  
豊生ブレーキ工業株式会社  
マブチモーター株式会社 他 (50音順)

# 巻頭言

Introduction

## 誰かもどこかで…



一般社団法人日本自動車部品工業会  
副会長・吉田 彦佳志

[大東プレス工業株式会社 取締役会長]

とある日、弊社のよく存じ上げているお客様から私宛に、小包が届きました。包を開けてみますと正方形の四角い絵本の様な本が一冊。本のタイトルは『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』、アマゾン総合ランキング第1位とあり、さらに“貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、無限に欲がありいくらあっても満足しないこと”と表紙に書かれていました。私の事かな???と、一瞬ドキッとしました。目を通してみますと、2012年に実際にあったお話し、興の趣くまま一気に読み終えてしまいました。読んでみて「なぜこの本が私のところに届いたんだろう」との疑問が氷解しました。私は日頃から「人間は何をするために生まれてきたのか？何のために働くのか？」という事を自分なりに考え、機会ある度に話しをしてきておりました。その私の話を聞いてくださったお客様が、この本を送って下さったのでした。私がいつも話している事と同様な趣旨が述べられているために贈呈頂いたんだろうと推察しました。

人は何の為に仕事をするのでしょうか？  
“お金持ちになるために??欲しい物を沢山手に入れるために??人よりも沢山売れる物

を作るために??高い市場シェアを獲得するために??世界で一番生産コストが安いところで作り高く売って儲けるために??” その様な目的のために我々は生まれてきたのでしょうか?先日これもとある方が「あなたは何のために働くのか??誰の為に働くのか??」と問われ、「目の前の方に喜んでいただくために働く」と答えられた、と書いておられました。どこにも「お金を沢山持つ為に働く」とは書いてありません。人が生きていく為に必要な物はお金だけではありません。こんな事は誰でも知っています。確かにお金は必要ですが、お金は食べられませんし、話もしません。人は他の人の助けなしには一人では生きていけません。にも拘わらず、誰よりも沢山売るために、人よりも多く稼ぐため、もっと沢山のお金を稼ぐため、それとは反対の行動を平気でしています。他人が十売れば自分は二十売ろうと競いあいつつ、顔を合わせると顔では“仲良く共存共栄”と言っています。実に不思議です。地球にある資源は全て有限であり、この資源は全人類に平等に与えられた物であるはずなのに、と私は考えています。

私は“8・8・8を推進しよう”と、最近

事ある毎に言い続けております。8・8・8とは、“1日8時間働いて、次の8時間は自分のために過ごし、残りの8時間は睡眠に”との意味です。働く時間の8時間は精一杯優先して過ごさなければならないのは当然の事ですが、ですが真ん中の8時間は、人として生まれてきた我々にとってより大切な時間だとも思っています。真ん中の8時間は、自分の趣味やスキルのアップ、他の方々との交流や家族と一緒に過ごすための大切な時間、人として生まれてきた喜びを一番感じる事のできる時間だとも思っています。「そんな事をしていたら会社が潰れてしまう」とも言われましたが、それも一理あり。自分だけとか自社だけで8・8・8を実行出来るはずはありません。しかし8・8・8を少しづつでも実行していかなければとも考えて、弊社の様な中小企業ではなかなか実施できなかった水曜日の午後5時終業を、改めてきちっと遵守できる様に制度化しました。突然の残業廃止に、従業員の方々は当初、確かに戸惑いもあった様です。が、次第次第にそれを順守していこうとの雰囲気醸成されてきています。まだまだ十分身についた習慣になるまでには程遠いと感じていますが、誰かもどこかで…

特集

# 世界標準を加速する メガサプライヤーの誕生と 日本オリジナリティ

## ——世界標準化の中での立ち位置——

欧州系サプライヤーを中心に巨大化が進んでいる。M&Aや資本参加により活動領域を拡大する方式だ。こうしたなか、先進技術での世界標準化をいち早く決め、市場拡大を図る大型サプライヤーの動きも加速している。いまや「欧州において先端自動車の開発は完成車メーカーではなく、サプライヤーがそのカギを握っている」（国内のサプライヤー首脳）と言われるほどだ。コンピュータ業界のように、コア技術を握ったメーカーが市場の主導権を握るというわけだ。今まで、先進技術の標準化で「あえて一歩後を行っていた」とする日本のサプライヤーも危機感は隠せない。市場の主導権をいかに握るか、サプライヤーの立ち位置が求められている。

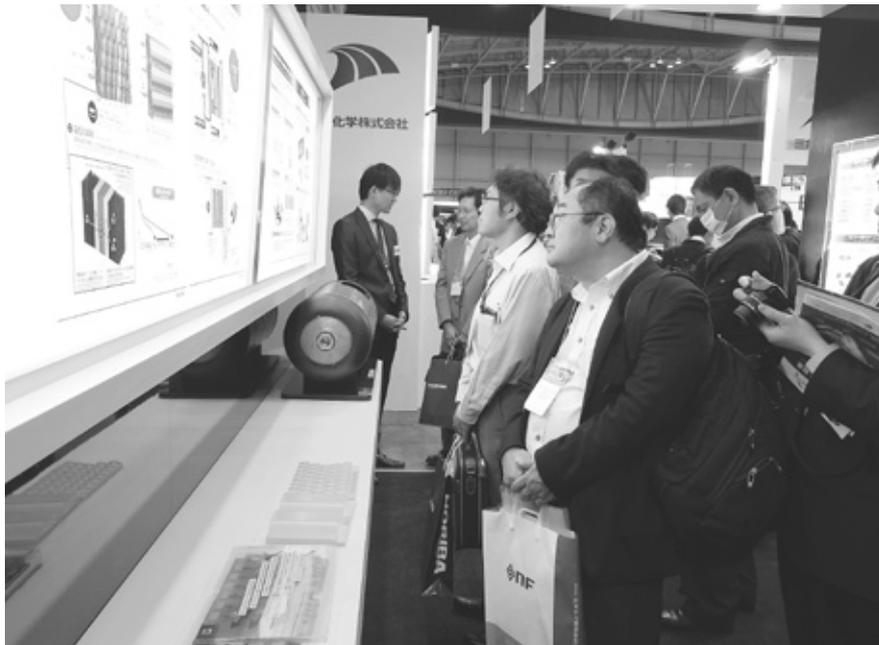
### 信頼を基に

市場の覇権を握る世界標準化が加速するなか、国内のサプライヤーはあえて従来の伝統的ともいえる手法に注目している。完成車メーカーと共に歩んできた歴史を尊重し、今後も完成車メーカーと共に先進技術を開発・製造し市場で戦う図式だ。いまや死語ともなったが水平分業と言われる欧米の産業構造に対し、垂直分業とされる日本ならではの産業構造をあくまでもいかし、将来につなげる。戦後、日本の自動車産業

の成長を支えてきた完成車メーカーとサプライヤーの信頼関係にさらに磨きをかけ、未来に臨む格好となる。安定供給や品質や競争力の維持を目的に国内完成車メーカーが進めてきた『ケイレツ』の絆を大切にするとということでもある。

### 一歩先に

もちろん、国内サプライヤーとして強みである完成車メーカーとの信頼関係は今後とも大きな強みだが、欧州系メガサプライヤーの動きに対し「今までは少し遠慮して



先進技術への関心は今まで以上に高まっている (写真と本文は関係ありません)

いた」と反省する国内サプライヤーも増え始めている。先進技術は当然、今までにない商品だけに市場でのリスクも伴う。だからこそ、いままでは、ある程度市場の動向を見極めてから市場投入する手法だったからだという。一般ユーザーを含めた市場の動向をある程度見極めたうえで、自社商品を投入していたわけだ。だが、市場のグローバル化が進み、情報ネットワークもグローバル化した現在では、海外市場の動向を見極めたうえでの商品投入は、先発メーカーの後塵を拝してしまう。ましてや、先進技術の標準化で市場を押しえられてしまっただけでは、後発メーカーが巻き返すのには相当な努力が必要となる。だからこそ、国内サプライヤーといえども先進技術のリスクを考慮しても、今後はいち早く世界標準に向け

た活動が必要になるとみる。いかに先進技術を押しえ、完成車メーカーにアピールするか。欧米大型サプライヤーの動きを視野に入れた対応を急いでいる。

## 官民一体となって

世界標準ではサプライヤー単独ではなく、国、政府との連携が重要なカギを握る。世界標準とは異なるが、自動車の基準認証を見ても国連の場で協議を進める国土交通省に関係者は絶対的な人手不足を掲げる。法制上の世界調和は、ユーザーにとっては加盟国の車両が従来よりも容易に購入できるチャンスが生まれるものの、参加国にとっては自国に有利な基準を導いてこそ結果的に産業の優位性にもつながる側面があ



画期的な製造技術もサプライヤーとしての競争力のひとつ

る。現状は実質的に自動車に関する法制が異なる米国を除き、日本対欧州勢という図式だけに協議では不利な側面あるという。自動車の健全な発展だけでなく、自国の自動車産業の発展を見据えた戦いの場ともいえるわけだ。

もちろん、先進技術もこの図式に当てはまるケースがある。車両の走行や停止、安全を見るうえで先進技術の採用は加速しているが、あらたな技術だけに法制上の裏付けが生じることもあるからだ。いちはやく、自国産業に有利な法整備を整えれば市場の競争力はより一層強くなる。それだけに、官民一体となつての取り組みが今まで以上に重要になってきているわけだ。

こうした環境でいかに戦うか。単独企業ベースではなく、サプライヤー間の協調、

完成車メーカーとの連携などケースごとに手をつなぐ必要性が生じている。もちろん経済産業省や国土交通省など官との連携も大切だ。自動車産業は日本の重要な産業としての側面を持つだけに、日本の製造業としての競争力を維持していくうえでも重要になる。

## 独自性を発揮

標準化が加速しながらも、最終的に商品を左右するのは消費者となるのが自動車だ。それだけに、完成車メーカーにとっては自動車関連分野だけでなくあらゆる領域に絶えず注目している。他社にない機能、部品が完成車としての競争力を強化するからだ。サプライヤーの企業規模に関係なく、



開発力と生産力に加えてマーケティング力が重要に

新たな力を完成車メーカーが常に求めているともいえる。サプライヤーにとって標準化以前に、自社の得意性を活かした独自商品の開発が今後もかかせなくなっているといえる。製品だけでなく、製造手法も含めた独自力をいかに伸ばしていくかが、今後の方向性を固めるうえで重要になっている。

## 完成車メーカーの立ち位置

メガサプライヤーの世界標準化の取り組みに対して、完成車メーカーの大きな違いは、消費者につながる販売ネットワークだろう。商品開発のためのマーケティングからはじまり、商品の販売、メンテナンス、廃車後の処理まで、製造だけではなく自動車

の生涯全般にまで携わっている。エンドユーザーと密接な関係がある完成車メーカーと、BtoBを基本とするサプライヤーとの大きな違いといえる。つまり、部品の標準化や共通化がユーザーに不利益をもたらすようでは、市場には浸透しないということでもある。こうした視点にたてば、サプライヤーは完成車メーカーのマーケティングとの連動性をますます欠かせないともいえる。さらには、独自のマーケティング能力も強化して先読み能力を開発に結び付ける力も大手を中心に必要になるだろう。安全、安心、環境、資源問題を含めていかに健全な自動車社会を世界で構築するか。ロングレンジの視野を持ったサプライヤーの経営が求められているともいえる。

# 米国の利上げとその世界経済への影響

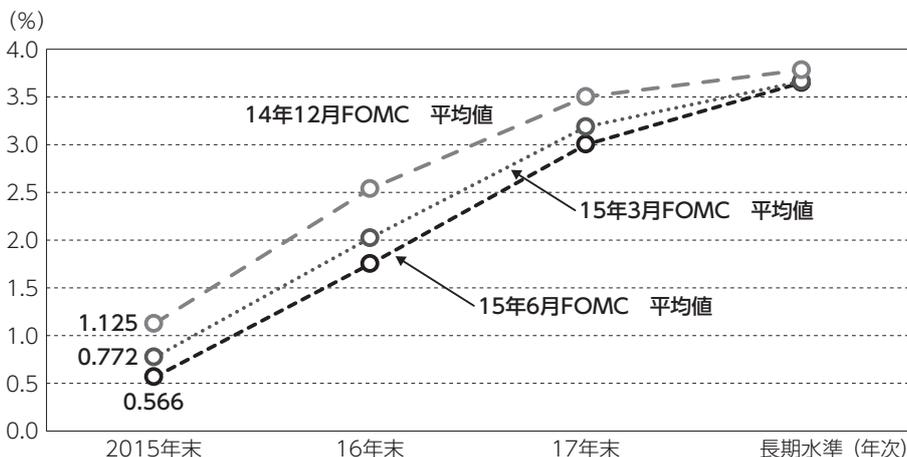
米国経済は、2008年9月のリーマン・ブラザーズの破綻を発端として金融危機に陥り、08、09年と2年連続のマイナス成長に落ち込んだ。この歴史的な落ち込みに対して、FRB（連邦準備理事会）は08年12月には政策金利を事実上のゼロ金利（0.0～0.25%）に引き下げたほか、国債やMBS（住宅ローン担保証券）などを購入する量的緩和策で市場に資金供給を行った。異例の長期を要したものの、金融緩和策の効果もあって米国経済は着実に回復を続け、失業率は完全雇用に近い水準まで低下してきている。こうした回復の進展を背景にFRBは14年10月に量的緩和を終了し、現在は約7年ぶりとなるゼロ金利解除に向けて、政策金利の引き上げ開始時期やその後の利上げペースに関心が集まっている。

14年3月に就任後初の議会証言を行ったイエレンFRB議長は、量的緩和終了後6ヵ月で金融引き締めに移行する可能性に言及し、市場では利上げは最短で15年6月のFOMC（連邦公開市場委員会、FRBの金融政策決定会議）とみられていた。しかし、FOMCが3ヵ月毎に公表する会合参加メンバーの政策金利

見通しの平均をみると（図1）、14年12月時点から見通しは低下し、15年6月時点では15年中に1回程度（0.25%引き上げて0.50%）の利上げを織り込むにとどまっている。この背景には、15年1～3月期に寒波の影響により景気が減速したことや、14年後半からのドル高や原油価格の下落による経済下押しが続いたことがあった。6月FOMCでは、寒波による一時的な減速から脱したとしながらも利上げ開始時期の判断について慎重姿勢を崩さず、7月FOMCにおいても利上げの環境が整いつつあるとの認識を示しつつも、経済情勢次第とのスタンスを保っている。

FRBは、雇用と物価という2つの政策目標に関して依然改善の余地が残るとしている。雇用者が増加し、失業率は低下したものの、賃金上昇に力強さが欠けることや、金融危機後に大きく低下した労働参加率の戻りが弱いことなど、労働の質の改善は不十分としている。また、物価は原油価格の低下やドル高による輸入物価の低下により、依然長期目標の2%を下回っている。他方で、FRBは利上げが遅れることで経済が過熱するリスクへの懸念を示しており、景気回復が順調であれば、市場とのコミュニケーションを図りながら9月16～17日の会合で利上げを行う可能性がある。ただ、中国経済の減速など世界経済の足取りがもたつく中、米国にとっても多国籍企業の収益悪化やドル高を通じた製造業の伸び悩み、あるいは金融

図1 FOMCの政策金利見通し



備考) FRB資料よりDBJ作成

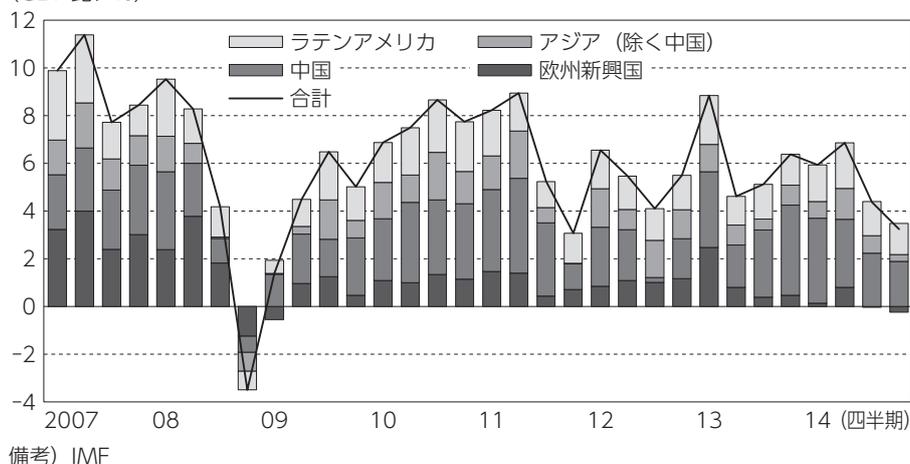
市場へのショックなどの悪影響が及ぶ可能性があり、利上げ開始のタイミングが12月あるいは来年にずれ込む可能性も視野に入れる必要があるだろう。

利上げが米国経済にもたらす影響としては、まず、過熱が指摘されるハイテク株やハイイールド債などの一部金融商品における価格下落の可能性がある。先物金利や長期金利も今後の政策金利の引き上げを十分に織り込んでいないことが指摘されており、利上げ開始後に上昇ピッチが速まり、影響が広がる可能性がある。ただし、ゼロ金利政策の解除は経済の健全化に応じた金利機能の正常化である。図1のFOMCメンバーの政策金利見通しでは、15年6月時点で15年末の0.5%から17年末の3.0%まで1年で1.25%（0.25%の利上げを年5回）と、前回利上げが行われた04年5月から06年6月にかけての年2%超に比べて緩やかなペースでの利上げが見込まれている。経済の回復ペースに即して適切な利上げを進めることは、過大なリスクテイクなどの歪みを抑えつつ、息の長い景気回復を実現するために必要なものである。

次に、世界経済への影響に目を向けると、これまで米国に加えて日本、欧州が緩和的な金融政策を採る中で、成長期待の高い新興国に対して金融危機後も大規模なリスクマネーが供給されていたが、米国で量的緩和が終了し、利上げ開始が意識される中で、資本流入ペースの鈍化がみられ始めている（図2）。IIF（国際金融協会、2015）は、過去にも米国の金融政策が引き締めに転じることで新興国経済が不安定化した点を指摘し、今回の米金融緩和の終了が、投資資金の流出を通じて新興国の経済成長を鈍化させることを懸念し

図2 新興国への資本流入

(GDP比、%)



ている。13年5月に当時のバーナンキFRB議長が量的緩和の終了に言及した後は、經常赤字を抱える新興国の通貨が下落する現象がみられた。こうした国では、通貨安を食い止めるため、利下げによる景気刺激策を通じて成長を支えることも困難になる。

ただし、FRBは市場とのコミュニケーションを図りながら円滑に利上げを進めるとみられる。また、欧州はこの3月に開始した量的緩和を少なくとも16年9月までは継続するとしており、日銀の異次元緩和も当面継続するため、緩和的な金融環境が世界的に一転するわけではない。新興国の側においても外貨準備を積み上げるなど、通貨下落に対する備えを進めており、97年のアジア通貨危機のような混乱に至る可能性は限られるだろう。それでも、7年にわたる未曾有の金融緩和が出口を迎えることにより、世界経済にどのような影響が及ぶかを見通すことは難しい。米国利上げのインパクトは、今年後半から来年にかけての世界経済の最大のテーマと言えるだろう。

#### 参考文献：

- 日本政策投資銀行 (2015) *DBJ Monthly Overview*, 7・8月号.
- FRB *Minutes of the Federal Open Market Committee*.
- IIF (2015) *Fed Exit and Emerging Market Crises*, January.
- IMF (2015) "Uneven Growth: Short-and Long-Term Factors," *World Economic Outlook*, April, Chapter 1.

# 工業会業務レポート

## 委員会活動

### 総務部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 7月17日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 各委員会活動報告等（京都ホテル）  
7月31日 政策委員会と自動車総連との懇談会（八芳園）

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 9月17日 広報部会 上期広報活動報告（テピア先端技術館）  
10月22日 正副会長等打合せ会 上半期事業報告、決算、各委員会活動報告等（経団連会館）

### 業務部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 6月16日 旧型補給部品検討会 旧型補給部品検討会の進め方の見直しについて検討を行った。（部品会館）  
6月18日 経営調査部会 講演会〔講演1〕 テーマ：IFRS適用に関する最新動向 講師：あらた監査法人 パートナー 木内仁志様〔講演2〕 テーマ：自動車部品メーカーに関連の深い個別論点と実務対応 講師：①収益認識 あらた監査法人 パートナー 鈴木理加様 ②有形固定資産 あらた監査法人 シニアマネージャー 川曲弘城様 ③無形資産 同上〔講演3〕 テーマ：IFRSプロジェクトを運営する際の留意事項 講師：あらた監査法人 シニアマネージャー 川曲弘城様（部品会館）  
7月31日 中小企業施策委員会 ・第14回技術展示商談会の結果と、次回商談会の開催について報告を行った。 ・仮想展示会についてデモンストレーションを行った。（八芳園）  
7月31日 自動車総連との懇談会 自動車総連との懇談会を開催した。（八芳園）  
8月5日 調達・生産部会 ・調達・生産部会の発足の主旨説明を行った。 ・今後の活動についての意見交換を行った。（部品会館）

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 9月17日 経営調査部会 講演会 テーマ：国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株)企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治様（名古屋栄ビルディング）  
9月18日 中小企業施策委員会 施設見学会 異業種（加工機械メーカー）施設見学会（DMG森精機伊賀グローバルソリューションセンター）  
9月25日、26日 総務委員会工場見学会（IHI相馬工場）  
9月28日 BCP（事業継続計画）支援セミナー 内容（1）事業継続力強化講習会（2）BCP演習セミナー 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸様 上席コンサルタント 下平庸晴様（部品会館）  
9月29日 BCP（事業継続計画）支援セミナー 内容（1）事業継続力強化講習会（2）BCP演習セミナー 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸様 上席コンサルタント 下平庸晴様（部品会館）  
10月1日 経営調査部会 講演会 テーマ：国内外の自動車

市場の展望と自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株)企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治様（機械振興会館）

- 10月1日 BCP（事業継続計画）支援セミナー 内容（1）事業継続力強化講習会（2）BCP演習セミナー 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸様 上席コンサルタント 下平庸晴様（太田商工会議所）  
10月2日 BCP（事業継続計画）支援セミナー 内容（1）事業継続力強化講習会（2）BCP演習セミナー 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸様 上席コンサルタント 下平庸晴様（ウインクあいち）  
10月6日 人財労務部会 自動車部品事業に関わる労務課題への対応について（部品会館）

### 国際部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 7月13日 国際委員会 1) 最近の情勢 2) 本年度事業の進捗 3) 国際交流の推進 4) 中南米の動向（部品会館）  
8月2日～8月5日 日アセアン経済産業協力委員会（AMEICC）自動車WG 1) アセアン各国の年次活動報告 2) アセアン市場統合 FTAの活用 他（カンボジア シュリムアップ）

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 10月1日 国際委員会 1) 最近の情勢 2) 本年度事業の進捗 3) 他（部品会館）  
10月2日 知的財産権部会 1) 知財関連事項の説明 2) 【報告】WGの活動進捗について 他（部品会館）  
10月28日 三極部品会議 事務局会合（インターコンチネンタルホテル東京ベイ）  
10月30日 日韓自動車部品協議会 1) 開会・両国代表挨拶 2) 出席者紹介 3) 両国プレゼンテーション 4) 質疑応答（インターコンチネンタルホテル東京ベイ）

### 関東支部

#### ●業務報告 [6/16～8/15]

- 6月30日 工場見学会 「震災からの迅速復旧とBCP、ものづくり人財育成の取組み」（アルプス電気(株)古川工場）  
7月2日 関東支部経営研究会幹事会（部品会館）  
7月16日 自動車メーカー工場見学会（トヨタ自動車(株)元町工場）  
7月23日 第2回運営委員会 平成27年度関東支部事業について（八芳園）  
7月23日 講演会 「海外進出企業のビジネスリスク管理」 コンサルビューション株式会社 代表取締役社長 高原彦二郎様（八芳園）  
7月29日 産業実地研修（自動車部品産業理解促進事業） 専門高校教員を対象とした工場見学及び意見交換等（KYB(株)相模工場）

#### ●行事予定 [9/16～11/15]

- 9月16日 関東支部経営研究会講演会 「企業不祥事と組織風土—最近の不祥事事例から学ぶ教訓—」 警察大学校 警察政策研究センター 教授 危機管理シ

ステム研究会理事／失敗学会理事 樋口晴彦様  
(部品会館)

9月18日 第2回関東支部企画部会 平成27年度関東支部事業報告(上期) 平成27年度関東支部事業計画(下期)(三菱電機㈱姫路製作所)

10月3日～11日  
メキシコ海外視察

11月12日～13日  
情報交流会

## 中部支部

### ●業務報告 [6/16～8/15]

6月19日 活動計画検討会(環境部会) 2015年度活動計画の検討と策定(名古屋栄ビル)

6月19日 ISO/TS16949:2009 規格解説セミナー(刈谷市産業振興センター)

6月23～25日  
中小企業大学校瀬戸校研修会「コストダウンの考え方と原価のしくみ」(中小企業大学校瀬戸校)

7月1～3日  
中小企業大学校瀬戸校研修会「チームを率いる管理者の業務改善の進め方」(中小企業大学校瀬戸校)

7月7日 米国法務セミナー「最近の米国の労働組合関係の動向」米国インディアナ州弁護士 本間道治氏(名古屋栄ビル)

7月23～24日  
ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー(刈谷市産業振興センター)

7月28日 講演会(中小企業部会)「メキシコ自動車産業の最新動向と中期展望」日本貿易振興機構 中畑貴雄氏(名古屋栄ビル)

7月30日 優良施設見学会(環境部会) キリンビール㈱名古屋工場(愛知県清須市)

7月30～31日  
ISO9001:2008 内部監査員2日間セミナー(刈谷市産業振興センター)

### ●行事予定 [9/16～11/15]

9月15～17日  
中小企業大学校瀬戸校研修会「リーダーシップ力養成講座」(中小企業大学校瀬戸校)

9月17日 講演会(本部共催)「国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略」(仮題) 大和証券シニアアナリスト 箱守英治氏(名古屋栄ビル)

9月25日 講演会(環境部会)「アジアにおける産業廃棄物の処理事情と土壌規制の動向について」DOWエコシステム 小泉信夫氏 他(名古屋栄ビル)

10月14日 局長講演会・懇親会(支部主催)「中部地域の産業の展望と課題」(仮題) 中部経済産業局 局長 波多野淳彦氏(名古屋東急ホテル)

10月20日 事例選考会(環境部会) 代表事例の選考(名古屋栄ビル)

10月27日 北米報告会「北米自動車産業の現状と展望」(仮題) JAPIA北米事務所 代表 河島哲則氏(名古屋栄ビル)

10月29日 優良企業工場見学会(中小企業部会) ダイキン工業㈱滋賀製作所(滋賀県草津市)

11月13日 講演会(中小企業部会)「和時計から日本のものづくりを考える」ナルセ時計㈱ 社長 成瀬拓郎氏(名古屋栄ビル)

## 関西支部

### ●業務報告 [6/16～8/15]

6月16日 補修部品分科会 見学会(㈱オートバックスセブン西日本ロジスティックセンター)

6月17日 生産分科会 委員会・工場見学会(丸五ゴム工業㈱矢掛工場)

6月25日～26日  
品質分科会 ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー(エル・おおさか)

7月7日 技術分科会 講演会「自動車の軽量化と軽合金鋳造技術の適用動向」日産自動車㈱ パワートレイン技術開発試作部 エキスパートリーダー 神戸洋史氏(ホテルグランヴィア岡山)

7月17日 第2回正副支部長会・第1回運営委員会・情報交換会(京都ホテルオークラ)

### ●行事予定 [9/16～11/15]

9月16日 品質分科会 勉強会・見学会・試乗会「水素エネルギー製品研究試験センターの見学会」「トヨタ・ミライの試乗会」((公財)水素エネルギー製品研究試験センター)

10月8日 経営研修会 勉強会・情報交換会「R.ボッシュ社のご紹介並びに海外での自動車メーカーと部品企業の取引関係」(仮題) ボッシュ㈱ 副社長 森川典子氏

10月21日 生産分科会 工場見学会・ご指導会(㈱アステア)

10月27日 経営研修会・総務分科会・品質分科会共催 勉強会「外国レンタル工場」

11月5日 技術分科会 見学会(防衛省・先端技術推進センター)

## 技術関係委員会等の開催状況 (6/16～8/15)

### 1. 総合技術委員会

日時	会議名	開催場所	概要
6月25日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1) SIPの対応について

### 2. 基準認証部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
7月3日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) 車両メーカーの最新情報共有 2) 中国ミッションスケジュールについて 3) 新実施規則対応にもとづく運用面での課題と要望事項整理 4) 中国CQC公告の解釈について 5) 新実施規則対応にもとづく補給品の扱い 6) その他 JAMAへの要望事項について
7月7日 ～10日	基準認証部会 台湾ミッション	台湾	1) VSCC訪問 2) ARTC訪問
7月24日	基準認証部会 ASEAN WG	自動車部品会館	1) 本年のASEANワーキングの進め方について 2) JASIC情報展開 3) ASEANミッションについて 4) JAPIAとして情報収集していくべきASEAN情報について
	基準認証部会 台湾WG	自動車部品会館	1) 台湾ミッション報告取りまとめ

### 3. IT対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
6月26日	DE促進部会	デンソー (刈谷)	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他 (困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
7月21日	IT対応委員会 合同幹事会	自動車部品会館	1) 自工会よりの情報提供 2) 部工会よりの情報提供

### 4. 環境対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
6月18日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 午後の分科会内容確認
	物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) 会議体名称変更報告 2) JAMAシート 2.31 レビュー結果報告 3) GADSLアンケート結果報告 4) 材料表記アンケート結果報告 5) 物質調査に関わる最新情報紹介
6月24日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) ガイダンスグループ活動報告 2) 法規制調査グループ活動報告 3) 欧州プロセスケミカル会議報告
6月25日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 各部会活動報告 2) 欧州出張報告 (TF-BPR&TF-REACH) 3) 部工会・若手育成パネルディスカッションについて
6月29日	標準LCAデータ作成WG	アイシン精機 (刈谷)	1) 平成27年度計画 2) 各製品の標準材料構成算出方法 (案) 3) 標準材料構成算出方法に従った代表製品での集計結果 4) 日本LCAフォーラム DB整備事業説明会の展開
7月1日	環境規制対応 若手育成 パネルディスカッション	東京国際交流館 国際交流会議場	1) 自動車業界における物質調査ツールの存在意義 2) どうすれば適切に環境規制に対応できるのか 3) 生産工場での化学物質管理の必要性と管理水準の向上に向けて 4) 欧州ELV規制の鉛適用除外はなぜ必要か

日時	会議名	開催場所	概要
7月7日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 各部会活動報告 2) 欧州出張報告 (TF-BPR&TF-REACH) 3) 若手育成パネルディスカッション (7/1) 報告
7月14日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動について
7月22日	LCA使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1) H27年度一活動計画の確認 2) 前回宿題の発表 (使用段階の使用時間シナリオと計算結果) 3) 重量、電流、動力/摩擦の負荷計算方法
7月23日	化学物質規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 (第13次SVHC、PACTリスト) 3) 欧州情報 (ACEA REACH TF、BPR TF等) 4) 部工会パネルディスカッション (15/7/1) の結果報告
7月24日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 次回総合技術委員会報告内容 2) 中国出張報告 3) 分科会活動報告
7月27日	環境対応委員会幹事会	刈谷産業振興センター	1) 各部会・分科会の本年度活動計画の報告 2) 総合技術委員会報告 3) 事務局情報

## 5. 品目別部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
6月17日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) 平成27年度予算案 2) インフォーマル会議・GRSP報告と対応について
6月19日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録の確認 2) 第67回ISO国際会議アクションアイテム対応審議 3) JASO D603 アルミ電線規格、一時案修正審議
6月22日	車輪技術部会及び タイヤ・リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
6月23日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 平成26年度ブレーキホース部会収支報告 2) 平成27年度ブレーキホース部会活動計画 3) 2015年CCC工場監査計画 4) CCC認証最新動向 5) 実施規則、実施細則に対する質問・要望事項
7月2日	レストレイント部会 春季合同会議	品川 インターシティ	1) 平成26年度部会・分科会活動報告 2) 平成27年度部会・分科会活動計画 3) 平成26年度部会・分科会決算、平成27年度部会・分科会予算案 4) 部会・委員会役員 部会派遣委員等について 5) GRSP国際会議等JASIC関連報告 6) 基準認証部会関係報告
7月13日	内装材技術部会	自動車部品会館	1) 部会・分科会の活動方針について 2) 部会分科会役員について 3) VOC対応分科会、 中国CCC認証対応分科会メンバーに分かれて活動内容の検討 4) 各社状況の情報交換
7月16日	シート部会	自動車部品会館	1) 第18回シート技術研究発表会開催計画
	ブレーキホース部会	安保ホール (名古屋)	1) 部会長交代について 2) CCC工場監査スケジュール 3) 中国ミッションについて 4) CCCの最新情報について
7月16日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) JASO D603 アルミ電線規格、一時案作成審議について 3) アルミ電線規格化に向けての整合について 4) 第67回ISO国際会議アクションアイテム対応審議
7月17日	シートベルト分科会	芦森工業 (大阪)	1) 審査部対応 (ウエビングクランプ試験解釈、EXSTO使用、その他) 2) 中国CCC監査情報共有 3) UN R.16改定提案 (Z認可、エアバッグ装備の胸移動量300mm免除要件) について意見集約

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
7月23日	警音器部会	自動車部品会館	1) フォーマルドキュメント（ロシア）の日本スタンスの検討について 2) ECE R28抜本改正の対応について
7月24日	車輪技術部会及び タイヤ・リム合同会議	日本自動車 タイヤ協会	1) ISO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
7月27日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) 新規参加会員の紹介 2) 自技会（5/22）からの検討依頼内容について各社意見交換
7月31日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) JASO D603 アルミ電線規格、一時案作成審議について 3) アルミ電線規格化に向けての整合について 4) 第67回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について
	ランプ部会	メルパルク京都	1) GTB会議（7/22-23@Karlsruhe）の結果報告について 2) 台湾ミッション報告
8月3日	警音器部会	自動車部品会館	1) フォーマルドキュメント（ロシア）の日本スタンスの検討について 2) ECE R28抜本改正の対応について
8月5日 ～7日	ブレーキホース部会 中国ミッション	中国（北京）	1) CCAP訪問 2) TMEC訪問

### ●行事予定 [9/16～11/15]

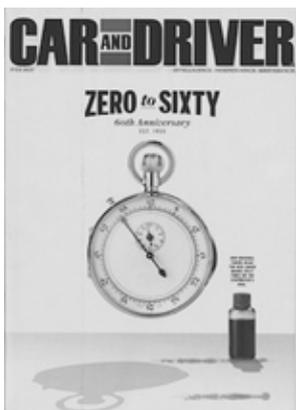
月 日	会合名称など	概 要	場 所
9月17日	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
9月18日	オイルシール技術部会		自動車部品会館
//	LCA使用段階負荷算出WG		自動車部品会館
//	電線部会		自動車部品会館
//	車輪技術部会及びタイヤ・リム合同会議		日比谷図書文化館
9月24日	国際イベント準備委員会		自動車部品会館
9月25日	DE促進部会		自動車部品会館
//	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
10月2日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
//	電線部会		自動車部品会館
10月5日	濾器技術部会		自動車部品会館
10月15日	物質調査システム分科会		自動車部品会館
10月16日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
10月21日	基準認証部会		自動車部品会館
10月22日	電線部会		自動車部品会館
//	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	車輪技術部会		自動車部品会館
10月23日	製品環境部会		自動車部品会館
10月30日	国際イベント準備委員会		自動車部品会館
//	シート技術研究発表会		コクヨホール
//	濾器技術部会		自動車部品会館
11月5日	H27年度第3回総合技術委員会		自動車部品会館
11月10日	GTB対応会議、ランプ部会		自動車部品会館

# カー・アンド・ドライバー 創刊60周年

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

北米事務所のあるミシガン州ノバイ市から南西に約50km離れたアナーバーはミシガン大学の本部キャンパスの他、トヨタや現代自動車の技術センター、米国環境保護庁EPAの自動車及び排気研究所などもある、それでいて多くの森に囲まれた美しい町です。このアナーバーに編集拠点を置くカー・アンド・ドライバーという自動車雑誌が今年創刊60周年を迎えました。提携している日本版が1978年創刊ですからこちらも歴史ある雑誌です。最大のライバルであるモーター・トレンド誌はもっと古く1949年の創刊ですが本拠地はカリフォルニア州ロサンゼルスです。デトロイトと同じミシガン州にあるカー・アンド・ドライバーのほうがデトロイト3を覇を占める記事をたくさん掲載しそうに思えますが実はこの雑誌は世界中のどのブランドも公平に扱うことで知られています。

さてカー・アンド・ドライバーが創刊60周年記念号を発行しました。なぜ50周年でなく60周年かという、クルマの性能を表す様々な数値のうち、停止状態から時速60マイルまで加速するのに何秒かかるかという、いわゆる0-60mphを単位



カー・アンド・ドライバー誌7月号

なしゼロ・トゥ・シクスティと呼ぶことから洒落たわけです。記念号の表紙を飾るのは創刊当時実際にゼロ・トゥ・シクスティを計測したというアナログのストップ・ウォッチで

した。

そのカー・アンド・ドライバーが60周年の記念に載せたのは1950年代以降の歴史あるクルマを同じモデルの最新型と並べてみせる多くの記事でした。シボレー・コルベットやフォード・マスタングなどのアメ車だけでなくメルセデス・ベンツ、BMW、ポルシェにフェラーリなど50年代、60年代、70年代の名車が出てくる中に日本車はほとんど登場しませんが、日本ブランドで米国生産一番乗りのホンダ・アコードがほんの少し紹介され、マツダ・ミアタ（日本ではロードスター）は25年前の最初のモデルと最新型、スバル

WRXは10年前のモデルと最新型をそれぞれ走らせた記事が掲載されています。居並ぶ欧米のクルマたちと一緒に「名車」として登場しているのはとても嬉しいことです。それは日本の各ブランドが長い年月をかけて米国という世界中の良いクルマを認める市場で築き上げてきた歴史のおかげであり、クルマというブランドの力がとても重要な商品にとっては長い間良いものを造り続けることでしか得られない価値です。

それにしても1950年代のモデルと最新のモデルを並べてどちらにもため息が出そうなドイツ車、イタリア車、1960年代と最新型が同じ名前のモデルがどちらも素敵なアメリカの名車たちと比べると我が日本の名車たちはまだ浅い歴史しかありません。しかしこれからもそれぞれのモデル名が背負う歴史と伝統を守りながら、決して妥協しないクルマをこれからも造り続けてもらいたいです。

〈完〉

# 特色ある技術を多方面に紹介 中小会員企業を支援

## Q 「委員会の基本的な活動とは？」

A 今後の国内自動車生産の増加が期待し難い状況から、特に国内を主たる事業領域とする中小会員企業を中心に自社の特色ある技術を紹介し、ビジネス機会の拡大に繋げるために、自動車メーカー及び同社と取引のある部品メーカー等を対象とした技術展示商談会を企画・開催しています。また、本年秋に開催される第44回東京モーターショーへの共同出展を行ないます。

## Q 「具体的な支援活動は？」

A 工業会の他の委員会と連携しながら、中小会員企業への支援活動を行っています。例えば、中小会員企業の海外展開の支援として、海外安全・健康管理サービスの提供や中小会員企業が活用可能な公的支援制度の適時メール配信、BCP(事業継続計画) 演習、自動車産業適正取引ガイドラインの周知セミナー等分かりやすく

丁寧な展開を図り、中小企業のものづくり力の強化に取り組んでいます。更に、中小会員企業のものづくり支援の一環として、自動車メーカー等の工場見学会等を企画・開催しています。

## Q 「今後の活動については？」

A 現在、自動車メーカーを対象とした技術展示商談会を開催していますが、開催回数や期間が限られていることから、より製品アピールの機会やお客様の



アマダ見学会



中小企業施策委員会  
委員長 石川 伸一郎  
(石川ガスケツ株式会社 代表取締役社長)

来場機会を増やすための工夫として、インターネットを活用した展示会の開催について検討を行なっています。

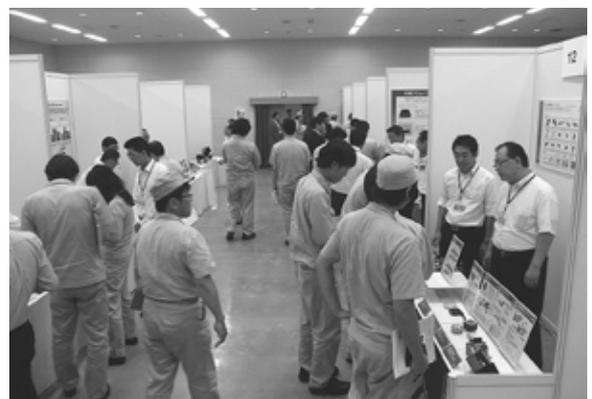
**Q 「事業継続やものづくりへの取り組みは？」**

**A** BCP（事業継続計画）の取り組み支援として、座学の勉強だけでなく、災害時の様々な場面において、中小会員企業の担当者が、事業継続を推進するためにどのような対応をとるべきかを考え、経験するための実践的なセミナー（1回目：

8月～10月上旬に災害時のBCP演習セミナー、2回目：11月～12月上旬に災害時の初動対策の訓練セミナー）を、全国5ヶ所で各8回開催しています。中小企業会員が抱えるものづくりの課題を解決するための活動としては、加工機械メーカーを訪問し、最新加工技術設備やそのデモンストレーションを見学するとともに、加工技術課題や最先端技術情報等のセミナーを実施し、各社の生産活動における課題等に役立てています。



トヨタ自動車東日本見学会



情報発信の場となる技術展示商談会

# 自動車用ヒューズで国内90%台 世界でも40%台後半のシェア

今後も「グローバルで信頼される会社」として  
高品質な製品とサービスを提供



小川貴久社長

## 会社プロフィール



**本部** 〒503-0981 岐阜県大垣市検町 450  
TEL.0584-91-3131 FAX.0584-91-6102

**資本金** 98400 千円

**従業員** 364 人

**事業所拠点** 本社工場／岐阜県大垣市検町 450、大垣工場／岐阜県大垣市久瀬川町 7-5-8、海外生産拠点／メキシコ 2 拠点、タイ、海外販売技術サポート拠点／米国 2 拠点、中国、ドイツ

**代表者** 代表取締役社長 小川貴久

太平洋精工は自動車用ヒューズで国内首位となる90%台、世界でも40%台後半のシェアを誇る。HV（ハイブリッド車）、EV（電気自動車）の飛躍的な増加に伴い、その使命は重要となり、クルマ社会を支えるヒューズのリーディングカンパニーとして同社のプレゼンスは更に高まっている。

1961年10月、太平洋工業から特殊部品部門を分離独立して設立。グリースニップル、リベット、ガラス管ヒューズの生産を開始した。

### 自動車用ヒューズで揺ぎない地位

以来、会社と社員が一丸となって技術開発力の向上に努め事業を拡大。71年にガラス管ヒューズの自動組立機の開発に世界で初めて成功したことに加え、77年に米リテルヒューズ社とパテントライセンス契約を結び、オートヒューズの製造・使用・販売権を獲得したことで更に飛躍することとなった。

その後もスローブローヒューズや低背ヒューズを開発するなど自動車用ヒューズにおいては世界で揺るぎない地位を築いた。

自動車用ヒューズは、電気ショートなどによる過電流を即座に遮断し、回路を構成する電線や機

器を火災などのダメージから守る部品。小さな部品ではあるが、極めて重要なポジションを占めている。

振動、雰囲気温度、精度、信頼性、サイズ・重量などにおいて、他の分野のヒューズよりも厳しい状況に耐えられる性能が要求される。

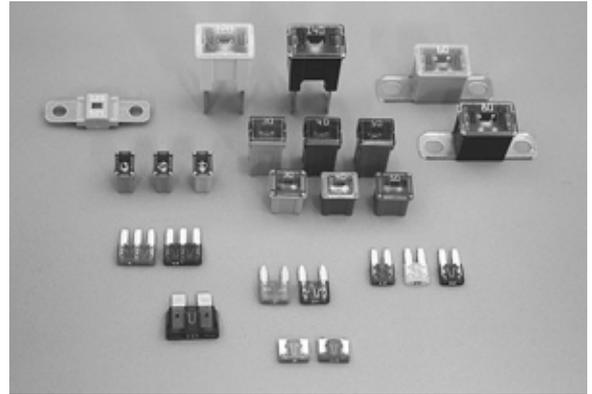
「自動車は寒冷地のマイナス40度から、砂漠のエンジンルームの140度くらいまで温度領域が極めて広い。また、細かいエレメントの部分が切れる製品なので耐振動性も要求される。音も出してはいけないし、小型軽量化も必要とされる」（小川社長）。こうした厳しい条件の中、1つのパッケージで複数のヒューズがビルトインされた製品をはじめ、多岐、多用な厳しい要求に応えた製品を送り出している。

### EVヒューズを開発。 EV、HVの普及に大きく貢献

90年代になって、各メーカーは先を争うようにHV、EVの開発を進めた。しかし、ガソリン車は電圧が12Vか24Vの低圧系なのに対し、HVの電圧は200Vから600Vに達する高圧系となる。同社は試行錯誤を繰り返し、HV、EVといった高電圧自動

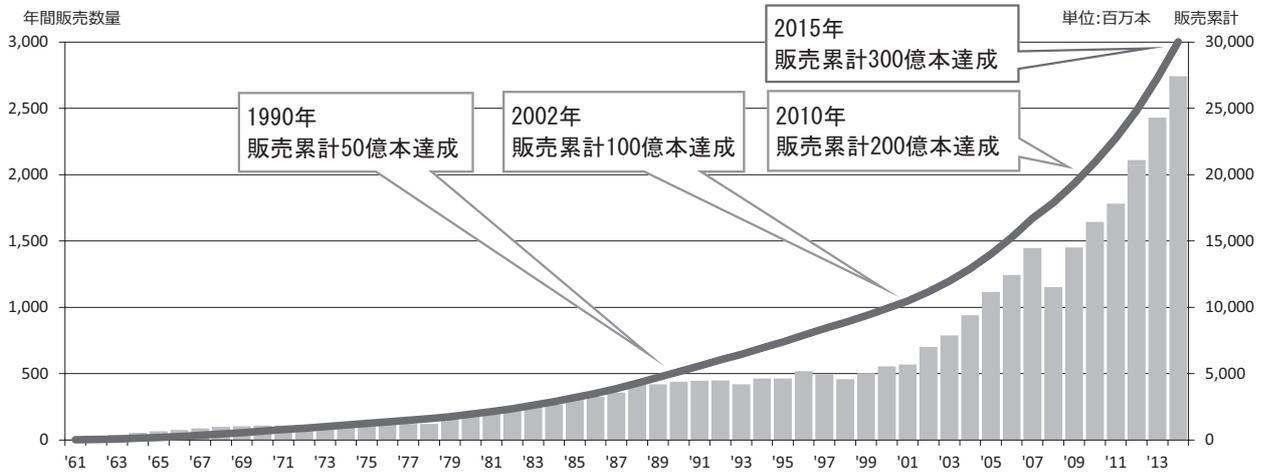


高压系 (EVF)



低压系 (BF・SBF)

### ヒューズ販売累計グラフ



車専用のヒューズであるEVヒューズの開発に成功。97年に誕生した世界初の量産HV、トヨタ「プリウス」に同社は自信を持ってEVヒューズを供給し、その技術力を全世界にアピールすることとなった。その後、ホンダ、三菱、日産などの国内各メーカーが同社のEVヒューズを採用し、HV、EVを市場に送り出している。

99年にオートヒューズのパテントライセンス契約が終了したことで、北米や欧州市場に本格的に参入。GM、オベル、クライスラーにスローブローヒューズを納入したほか、各メーカーがHV・EVを開発するごとに取引を拡大。フォード、ダイムラー、BMW、ルノーなどにEVヒューズの供給を開始した。

### グローバルな人材を育成

同社が特に重視するのが人材面。「グローバルな

人材、元気な人材を採用して育て、世界に羽ばたかせている。国籍、性別にはこだわらない」(同)。社内で語学教育を実施しているが「言葉は最後でいい。異文化対応力が重要」(同)という考えから、語学力に関わらず、意欲のある人材を積極的に海外勤務に登用している。

今年3月には販売累計300億本を達成。国内で9割以上、世界でも約半数の車が同社のヒューズを使用。フェラーリのF1マシンにも同社のヒューズが採用されていることは社内にとどまらずリクルート面にも貢献しているという。同社では「お客様にとって、世界で一番いい会社でありたい。同時に従業員にとっては当社で働くことで幸せを実感してもらいたい」(同)としており、もう一つの柱である「精密金属プレス」部門とともに、今後も「グローバルで信頼される会社」として高品質な製品とサービスを提供する方針だ。

## 会員トピックス

# 3Dプリンターで マイミニ四駆をつくろう！ 親子工作体験教室

一般社団法人 3D データを活用する会・3D-GAN 代表理事 相馬 達也さん

### 静岡と那須塩原で親子講座を開催

「3Dプリンター」と「オリジナルミニ四駆」を組合せ、親子でもものづくりの「イマ」を体験していただくことを狙いに5月と8月に静岡と那須塩原で親子講座を開催しました。静岡大会は2015年5月16日（土）、17日（日）に静岡ホビースクエアで、那須塩原大会は2015年8月8日（土）、9日（日）に那須塩原市いききふれあいセンター（黒磯公民館）で実施し、静岡大会には21組、那須塩原大会には24組の親子に参加頂きました。

参加者の親子（中学生以上は単独参加も可）にノートPCと小型3Dプリンターを1組ずつ用意し、ミニ四駆のオリジナルボディを、参加者それぞれが3Dモデリングして、3Dプリンターにより出力します。3Dプリンター出力したオリジナルボディを市販のミニ四駆のシャーシに組み付け、会場に設置したミニ四駆の専用コースで走らせて楽しむ講座です。

私共はCAD、CGを問わず3Dデータを作る、扱う産業、個人事業者の業界団体です。3Dデータは、設計製造業のツールとして利用され始めてからすでに30年近い歴史があり、ものづくりにおいて不可欠な日常の道具です。ところが世間一般にはこの「モノづくりと3Dデータの関係」というのはまったく理解されていません。また、自動車、及びその部品産業などで3D CADを使い設計製造に従事される方は非常に多いものですが、こうした皆さまがご自身の家庭において、具体的にどういう仕事をしているか？家族に説明が難しいものでもあります。

### 3D CADによる モノづくりを深めるため全国へ

私共は、設計製造業の日常である3D CADによるモノづくりを、安価になった3Dプリンター、さらに今や2世代コンテンツとなったミニ四駆と組み合わせることで、広く一般に理解を求め、子供達へのモノづくりの楽しさのアピールと、私共の産業への理解を「楽しみな



がら」深めていただくため、このプログラムを行っています。

現在、三重県、富山県総合デザインセンター、沖縄県等の自治体から誘致をいただいております。今後はこうした公的機関のみならず、自動車ディーラー等の店舗、商工会の地域イベント、工場の催事など「ものづくり」をテーマとした集客、地域後援にお役立ていただいております。誘致いただいた各地で開催し、最終的には全国47都道府県での開催を目指しています。

### 父親世代にもアピール

参加される動機は、ほぼ若い父親にあります。これは、「ミニ四駆」が最も流行したのは、今30代半ばの若い父親が小学生の頃であり、現在ではミニ四駆は親子で楽しむ2世代コンテンツにもなっています。それに加え、「クルマ好き」「機械ものが好き」という方々には3Dプリンターも興味の対象であり、この2つが組み合わせられ、親子で楽しむことが出来るこのプログラムは大変人気のイベントとなっているのと同時に、都市部、地方とエリアに関係なく集客が出来るものとなっています。

また、参加者からは、「今のものづくりはこうなっているのか」といった、PCを使った設計や、昨今話題になった3Dプリンターに理解が進むなどの感想もいただいております。さらに、夏休み時期には、この体験を子供の夏休みの自由研究としてまとめるなどのご家庭もありました。

今回の講座は一般社団法人3Dデータを活用する会・3D-GANの取材で、協力：株式会社タミヤ、後援：静岡市（静岡大会）、同：那須塩原市教育委員会（那須塩原大会）、同：一般社団法人日本自動車部品工業会、協賛：当会会員各社、及び開催地域の地元企業による協賛をいただいております。

### 行政・団体

6月.....

- 昨年の模倣品相談・情報提供、前年比1割増加 (26日)**  
政府は「模倣品・海賊版対策総合窓口」の年次報告書をまとめ、公表した。
- 自動車基準調和世界フォーラム、自動運転に不可欠な操縦技術 世界基準を策定 (29日)**  
自動運転に欠かせないステアリング(かじ取り装置)の国際規則改正論議が始まった。
- 国土交通省、次期ASV計画の検討を開始 (30日)**  
国土交通省は、次期「先進安全自動車(ASV)」計画内容の検討を始めた。

7月.....

- 国土交通省、大型車と二輪車で 排ガス規制大幅強化 (2日)**  
国土交通省は、大型トラック・バス(ディーゼル重量車)と二輪車の排ガス規制を強化すると発表した。
- 経産省調査、日本のグローバル企業、低採算部門の割合大 (4日)**  
日本のグローバル企業は海外企業に比べて成長性が低く、低収益部門の割合も高いことが経済産業省の調査で分かった。
- 自動運転や車両型式認証、相互承認制度を提案 WP29、日本主導で議論 (6日)**  
国連の自動車基準調和世界フォーラム(WP29)がこのほどスイスのジュネーブで開かれ、約30の政府や団体から100人が参加し、自動運転や車両型式認証の相互承認制度(IWVTA)などの議論が交わされた。
- 政府、官民ITS構想を改訂 自動運転の具体像盛る (9日)**  
政府は「官民ITS(高度道路交通システム)構想・ロードマップ」を改訂した。
- 国土交通省、タカタ製エアバッグ「至急の改修」通達 メーカー・日整運に (10日)**  
タカタ製エアバッグの不具合に関連して国土交通省は9日までに、対象メーカーと日本自動車整備振興会連合会にリコール(回収・無償修理)処理を急ぐよう通達と協力依頼を出した。
- 特許情報の国際ネットワーク、日本も参加へ (15日)**  
特許庁は、世界的な所有権機関(WIPO)が提供している、特許の出願・審査情報共有ネットワークである「WIPO CASE」に参加すると発表した。
- 6月末、タカタ製エアバッグ改修率34.4%に低下 (16日)**  
国土交通省は15日、タカタ製エアバッグのリコール(回収・無償修理)進捗状況を公表した。
- 昨年、車両火災2.6%減 原因トップ「排気管」 (21日)**  
総務省消防庁によると、2014年中の車両火災は4467件と前年より2.6%減った。

■**経産省、次世代車普及など重点 五輪以降の方向性策定 (27日)**

経済産業省は、2020年東京オリンピック・パラリンピック以降の産業政策を策定する議論を開始した。

■**国土交通省、自動車のハッカー対策急ぐ (28日)**

国土交通省は、自動車のハッカー対策を急ぐ。米国でのリコール(回収・無償修理)事例を精査する一方、国内メーカー各社が施しているセキュリティ技術を調べ、必要に応じて対策を練る。

■**政府、自動車局長に藤井氏、経産次官には菅原氏 (29日)**

政府は閣議後、幹部人事を一齐に発表した。

■**国土交通省、自動車担当審議官に持永氏 (31日)**

国土交通省は、課長級などの幹部人事を発表した。

8月.....

■**TPP閣僚会合 またも物別れ、自動車業界も先行き注視 (4日)**  
環太平洋経済連携協定(TPP)の閣僚会合が三たび物別れに終わった。

■**日本能率協会、日産など8社にグッドファクトリー賞 (8日)**

日本能率協会(JMA)は「2015年度(第5回)グッドファクトリー賞」を決定した。

■**国土交通省、交通事故自動通報装置をアセスの対象に メーカーに装着促す (20日)**

国土交通省は、2017年度から交通事故自動通報装置(ACN)を自動車アセスメントの評価対象に加えることを明らかにした。

■**国土交通省、タカタに側面エアバッグ異常展開の調査報告を指示 (22日)**

米国でタカタ製のサイド(側面)エアバッグが異常展開したとされる問題で、国土交通省は、事案の詳細と、日本でも同じ不具合が起きる可能性がないかどうか調べて報告するようタカタに指示した。

■**警察庁、光ビーコン刷新急ぐ 交通管制に活用 (24日)**

警察庁は、一般道に設置している光ビーコン(受信器)を2020年代前半までに通信容量を拡大した次世代型に切り替える方針だ。

### 国内

6月.....

■**タカタ会長が謝罪「問題解決が責務」 リコール後初の会見 (26日)**

タカタは、一連のエアバッグリコール問題の発覚以降初めてとなる会見を都内で開いた。

■**ホンダ、再び系列との結束強化 (26日)**

八郷隆弘新社長の下、新体制が始動したホンダが、系列サプライヤーとの関係を再び重視し始めている。

■**日本電産、日本IBMと共同でIoT活用しビッグデータ解析技術構築 (27日)**

日本電産は、日本アイ・ビー・エムと共同でIoT(モノのインターネット)を活用したビッグデータ解析技術に関する取り組みを開始し

**NOK**  
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

**NOK株式会社**  
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

たと発表した。

■**リケン、新潟・剣工場にコンパクトライン導入 小規模受注に対応 (29日)**

リケンは、剣工場(新潟県柏崎市)のピストンリング生産設備にコンパクトラインを導入し、8月から日系自動車メーカー向けに量産を開始する。

7月.....

■**スズキ、社長に鈴木俊宏氏 修氏は会長兼CEOに (1日)**

スズキは、鈴木俊宏副社長(56)が社長兼COOに就任したと発表した。

■**丸順、6月に本社機能を上石津工場へ移転 (1日)**

丸順は、7月6日をめぐりに本社機能を上石津工場(岐阜県大垣市)に移転する。

■**ルネサス、CTOに日高氏 (2日)**

ルネサスエレクトロニクスは、1日付で設置したCTO(最高技術責任者)に日高秀人氏(56)が就任した。

■**トヨタ、ハンブ常務役員の辞任受理 (3日)**

トヨタ自動車は、ジュリー・ハンブ常務役員(55)が6月30日に提出した辞任届を同日付で受理した。

■**パナソニック、フィコサと資本業務提携 早期に電子ミラー事業 (3日)**

パナソニックは自動車部品メーカーのフィコサ・インターナショナル(ハビエル・ブジョルCEO、スペイン・バルセロナ)と資本業務提携を開始すると発表した。

■**トヨタの新型株、1株1万598円で、購入申し込み開始 (4日)**

トヨタ自動車が安定株主の獲得を目的に発行する新型株の購入申し込み受け付けが3日、始まった。

■**日本特殊陶業、補修部品の米ウェルズ社全株式取得 (4日)**

日本特殊陶業は、スイッチやイグニッションコイルなどの補修部品を手がける米ウェルズ社の全株式を取得した。

■**ホンダ、八郷社長が就任会見「チーム力重視」 (7日)**

ホンダの八郷隆弘社長は6日、東京都港区の本社で就任後初の会見を開き、地域が独立して開発・生産・購買などを行う「世界6極体制」を進化させ、グローバルで生産モデルを補完する体制に移行する方針を表明した。

■**ハーマン、日本でナビ事業強化、スズキの初採用を機に (7日)**

米ハーマンインターナショナルの日本人のハーマンインターナショナルは、自動車メーカー向けのカーナビゲーション事業を強化する。

■**住友化学、原料高騰でポリエチレンなど値上げ (8日)**

住友化学は、自動車用内装材などに使われるポリエチレンとポリプロピレンの販売価格を改定する。

■**日産、走行車両でタカタ製エアバック異常展開 リコール連絡届かず (9日)**

日産自動車は静岡県磐田市内で6月25日に「エクストレイル」の助手席エアバックの異常展開による事故が発生したと発表した。

■**ルネサス、オーディオの車載半導体戦略パートナー企業に選定 (15日)**

ルネサスエレクトロニクス(ルネサス)は、日本の半導体メーカーとして初めて、独オーディオの車載半導体戦略「プログレッシブ・セミコンダクタープログラム(PSCP)」の戦略パートナーに選ばれた。

■**VW、インフレーターに水素式 オートリブ製、国内で初許可 (17日)**

フォルクスワーゲンは、16日に発売した新型「パサート」の助手席用エアバッグに水素を用いたインフレーター(ガス発生装置)を採用した。

■**デンソー、ボルボのDEに新型共通レールを供給 (24日)**

デンソーは、ボルボ・カーの新開発2リットル4気筒ディーゼルエンジン用に、気筒ごとに噴射圧を制御する共通レールシステム「i-ART(アイ・アート)」の供給を開始した。

■**三菱自、米国生産から撤退 経営資源アジアに集中 (25日)**

三菱自動車が米国工場の生産から撤退を検討していることが24日、明らかになった。

## クローズアップ

### ホンダ、歩行リハビリを支援 歩行訓練機器を病院向けに (7月22日)



ホンダは、歩行訓練機器「歩行アシスト」を全国の病院やリハビリテーション施設に向けて、11月からリース販売を開始すると発表した。二足歩行ロボットASIMOで培った原理をもとに、倒立振りモデルに基づく効率的な歩行を誘導する装置。これにより高齢者や脳疾患、神経系患者らのリハビリを支援する。

■**日本電装サンキョー、インドネシアに日系レンズメーカーを傘下に (25日)**

日本電装は、子会社の日本電産サンキョーが車載カメラ用ガラスレンズを手がけるナガタ オプト インドネシア(ナガタ インドネシア)の全株式を取得することで合意した。

■**デンソー、「朝型勤務」順調に浸透 (25日)**

デンソーが7月から試行している朝型勤務「モーニングシフト」制度が効果を上げている。

■**トヨタ自動車東日本の白根武史社長、地元取引先育成に意欲 (30日)**

トヨタ自動車東日本の白根武史社長は、「東北でのものづくり基盤を強化する」と述べ、2次以降の地元サプライヤーの開拓や育成に力を入れる方針を示した。

8月.....

■**出光興産と昭和シェル石油、経営統合を発表 (1日)**

出光興産は、昭和シェル石油との経営統合をこのほど発表した。

■**トヨタ系部品大手の4~6月期決算、相次ぎ好業績 (1日)**

トヨタ系大手部品メーカー7社の2015年4~6月期連結業績が揃った。

■**小糸製作所、18年度ヘッドランプ LED化率、国内6割、世界3割を目指す (3日)**

小糸製作所は2018年度にヘッドランプのLED化率を受注ベースで国内の6割、グローバルで3割に高める。

■**豊田合成、ブラジル企業に資本参加 樹脂部品に事業拡大 (6日)**

豊田合成は、ブラジルでインパネ構成部品やラジエーターグリルなど内外装用樹脂部品を手がけるベクバル社に資本参加すると発表した。

■**セブン&アイHD、EV充電器3380台設置 全国45店舗で11月から順次稼働 (7日)**

セブン&アイ・ホールディングス(HD)は、NECと共同で、全国45店舗のイトーヨーカドー、そごう・西武、アリオに電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHV)用充電器を合計で3380台設置する。

■**BASFジャパン、2、3年先の自動車カラートレンド予想 (10日)**

BASFジャパンは、2、3年先の自動車のカラートレンドを発表した。

■**東洋ゴム、売り上げ増も免震ゴム問題で損失 (11日)**

東洋ゴム工業は、2015年1~6月期決算を発表した。

■**タイヤ4社、1~6月期の業績 そろって最高の売上高 (12日)**

タイヤメーカー4社の2015年中間期(1~6月)の業績がまとまった。

■**日産自動車系部品8社、4~6月期決算 グローバルで堅調 (14日)**

日産自動車との取引が多い部品メーカー8社の2015年4~6月期決算は、日産の販売が北米を中心にグローバルで堅調だったことや円安・ドル高の進行により、全社で売上高が前年同期を上回った。

■**ホンダ系部品13社4~6月期決算 米好調、12社が増収 (15日)**

ホンダ系部品メーカー13社の2015年4~6月期決算は、米国市場の好調さ、円安ドル高を背景に12社で売上高が前年同期を上回った。

- パイオニア、「楽ナビ」国内移管 来月から量産開始 (18日)**  
パイオニアはタイで生産している市販用カーナビゲーション「楽ナビ」を国内に移管する。
- トヨタ調達部品の値下げ要請再開 1年見送りで成果 (21日)**  
トヨタ自動車はサプライヤーに対し、2015年度下期(10~3月)から調達部品の値下げ要請を再開する方針を固めた。
- ダイハツ、部品の「まとめ発注」導入 (25日)**  
ダイハツ工業は部品発注方法の一部に、車種や期間をまたいで発注先を選定する「まとめ発注」を取り入れる。

## 海外

- 6月.....
- 7月.....
- トヨタ、ホンダ、独立系部品各社 独メーカーからの受注獲得 目指し欧州で火花 (6日)**  
日本の部品メーカーで、ドイツの自動車メーカーからの受注をめぐる競争が激化しつつある。
- 河西工業、米でホンダ向け事業拡大 アラバマ工場専用化 (10日)**  
河西工業は米国でホンダ向けの生産体制を増強する。
- 8月.....
- アイシン精機、天津爆発事故で従業員14人が負傷 (20日)**  
アイシン精機の伊原保守社長は18日に都内で開催した記者懇親会で、中国・天津市の爆発事故でグループ会社の従業員14人が負傷したことを明らかにした。

## 市場

- 6月.....
- 7月.....
- 1~6月新車販売11%減、登録率、低水準も回復基調 (2日)**  
自販連と全軽自協が1日発表した2015年上期(1~6月)の新車販売台数は、前年同期比11.0%減の267万6634台だった。
- 1~6月軽販売、100万台超え維持 ブランド別はダイハツが首位 (2日)**  
全軽自協が1日に発表した2015年上期(1~6月)の新車販売台数

は、前年同期比15.4%減の104万5456台で2年ぶりのマイナスとなった。

- 昨年未現在の軽四輪車普及台数、さらに加速し100世帯当たり54台 (7日)**  
全国軽自動車協会連合会は、2014年末時点の軽四輪車の世帯当たり普及台数を発表した。
- 工作機械、上期の受注過去最高 (23日)**  
日本工作機械工業会が発表した6月の工作機械受注額は前年同月比6.6%増の1361億円と21カ月連続で増加した。
- JATMAが下方修正 今年国内需要5%減 (27日)**  
日本自動車タイヤ協会(JATMA)は、2015年の国内自動車タイヤ需要見直しを見直し、14年末の見直しに比べて2ポイント下方修正し、前年比5%減少とした。
- 日本鍛圧機械工業会、今年総受注予想額を3400億円に上方修正**  
日本鍛圧機械工業会は、2015年(1~12月)の鍛圧機械受注予想額を上方修正して発表した。
- トヨタ、1~6月世界販売 4年ぶり首位陥落 (29日)**  
トヨタ自動車が発表したトヨタグループの2015年1~6月の世界販売は、前年同期比1.5%減の502万2000台と2年連続で500万台超えを達成した。
- 乗用車8社、1~6月の生産・輸出・販売実績 (29日)**  
国内乗用車メーカー8社が発表した2015年上期(1~6月)の生産・輸出、販売実績によると、8社合計の国内生産台数は前年同期比8.7%減の437万8360台となり、2年ぶりに前年割れとなった。
- 8月.....
- 自動車メーカー4~6月期、国内苦戦も海外好調 7社が営業増益 (5日)**  
上場している自動車メーカー10社の2015年4~6月期(1Q)連結決算が出そろった。
- 3月末現在の乗用車普及台数、昨年と同水準 (24日)**  
自動車検査登録情報協会がまとめた2015年3月末現在の自家用乗用車(含軽)の世帯当たり普及台数は、1世帯当たり1.069台となり、前年と同水準だった。

## 記者の目

### 中国市場が減速

中国の新車販売台数が7月に4カ月連続で前年同月を下回り、中国経済の減速が車の売れ行きにも表れ始めた。欧州自動車メーカーの中には生産調整に動き始めたところもある。部品産業への影響も気にかかるところだ。

中国市場は今や米国を抜き世界一の市場となり、日米欧の主要自動車メーカー全てが生産拠点を構える世界最大の自動車生産国でもある。日本のサプライヤーも数多く進出しており、市場動向は常に注目されている。

2008年9月のリーマンショックを発端とした世界金融危機では先進国の市場が急激に冷え込んだ中、力強さを見せたのが中国だった。世界の自動車市場では

早晩、新興国が台頭してくると言われていたが、金融危機がそのペースを早めたと言える。

一方で、中国とともに成長エンジンになると言われていたロシア、ブラジルは期待に反する状況になっている。これらの国に進出したサプライヤーは操業度の低迷に苦しんでいる。今は米・中の2大市場が世界市場を牽引している状況だ。

中国市場の変化を背景に、欧州サプライヤーは地場の大手自動車メーカーへの拡販に動き始めている。中国で高いシェアを誇ってきた欧州メーカーの成長が鈍化していることに敏感に反応したものだ。市場の主役交代は始まっているようで、中国市場の動向には、これまで以上に注意を払っていく必要があるようだ。(K)



このダイジェストは6月25日~8月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連記事を抜粋。詳しくは日刊自動車電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

# 指標・統計

## ■自動車の生産・販売・輸出 (自工会調) .....

### 1. 四輪車の生産実績

(単位：台)

	2015. 4月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 5月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	592,244	90.8	2,687,890	91.5	539,173	82.3	3,227,063	89.8
普 通 車	359,572	98.6	1,552,706	96.9	333,173	92.0	1,885,879	96.0
小 型 四 輪 車	109,299	80.2	527,161	82.0	102,716	73.5	629,877	80.5
軽 四 輪 車	123,373	81.5	608,023	87.8	103,284	67.5	711,307	84.1
ト ラ ッ ク	108,910	101.2	459,006	101.7	95,558	87.8	554,564	99.0
バ ス	12,086	115.9	46,541	100.7	10,808	105.3	57,349	101.6
合 計	<b>713,240</b>	<b>92.6</b>	<b>3,193,437</b>	<b>93.0</b>	<b>645,539</b>	<b>83.4</b>	<b>3,838,976</b>	<b>91.2</b>

### 2. 四輪車の国内販売実績

(単位：台)

	2015. 4月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 5月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	263,374	89.9	1,607,402	85.4	279,419	91.8	1,886,821	86.3
普 通 車	81,909	108.3	490,799	84.0	88,631	103.7	579,430	86.5
小 型 四 輪 車	88,331	98.3	493,053	87.6	92,128	98.9	585,181	89.2
軽 四 輪 車	93,134	73.1	623,550	84.7	98,660	78.5	722,210	83.8
ト ラ ッ ク	55,168	106.6	285,742	94.6	55,584	95.0	341,326	94.6
バ ス	938	145.9	5,215	109.4	640	124.8	5,855	110.9
合 計	<b>319,480</b>	<b>92.5</b>	<b>1,898,359</b>	<b>86.7</b>	<b>335,643</b>	<b>92.4</b>	<b>2,234,002</b>	<b>87.5</b>

### 3. 四輪車の輸出実績

(単位：台)

	2015. 4月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 5月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	323,409	100.4	1,270,874	101.4	245,645	88.7	1,516,519	99.1
普 通 車	308,537	103.2	1,210,184	103.8	234,090	91.1	1,444,274	101.5
小 型 四 輪 車	14,460	63.3	58,891	68.9	11,313	57.5	70,204	66.7
軽 四 輪 車	412	113.8	1,799	136.9	242	242.0	2,041	144.3
ト ラ ッ ク	43,022	103.4	166,253	107.1	34,435	97.2	200,688	105.3
バ ス	13,476	111.4	47,303	100.6	9,397	98.9	56,700	100.4
合 計	<b>379,907</b>	<b>101.1</b>	<b>1,484,430</b>	<b>102.0</b>	<b>289,477</b>	<b>90.0</b>	<b>1,773,907</b>	<b>99.8</b>

## ■自動車部品の生産・輸出・輸入 .....

### 1. 自動車部品の生産 (経済産業省「生産動態統計」)

(単位：百万円)

		2015. 4月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 5月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	504,375	98.4	2,123,922	98.4	455,888	90.8	2,579,810	97.0
	関連自動車部品 9品目	106,157	101.5	433,349	98.4	95,144	96.6	528,493	98.1
	内燃機関電装品 5品目	35,709	102.5	135,713	99.8	30,448	93.3	166,161	98.5
	二輪車部品 4品目	5,729	107.2	24,273	100.8	4,981	95.7	29,254	99.9
	合 計	<b>651,970</b>	<b>99.2</b>	<b>2,717,257</b>	<b>98.5</b>	<b>586,461</b>	<b>91.9</b>	<b>3,303,718</b>	<b>97.3</b>

		2015. 4月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 5月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,329	99.7	13,719	97.6	2,938	90.9	16,657	96.4
	2	ピストンリング	3,431	108.0	13,951	104.4	3,122	95.5	17,073	102.6
	3	シリンダーライナ	1,583	86.2	6,773	91.4	1,554	90.6	8,327	91.2
	4	吸気弁及び排気弁	3,158	93.0	13,131	92.2	2,839	88.6	15,970	91.6
	5	ガスケット	2,351	96.0	9,652	96.6	2,193	91.3	11,845	95.6
	6	燃料ポンプ	1,665	85.6	7,271	88.6	1,420	78.2	8,691	86.7
	7	空気清浄器	2,251	107.2	9,021	114.2	1,908	94.2	10,929	110.1
	8	油清浄器	1,797	86.8	7,252	93.5	1,722	95.3	8,974	93.8
	9	油ポンプ	2,341	101.3	9,538	96.6	2,047	96.6	11,585	96.6
	10	水ポンプ	2,285	98.8	9,718	103.9	2,018	89.5	11,736	101.1
	11	ラジエータ	14,341	89.5	62,432	85.6	13,214	80.4	75,646	84.7
	12	クラッチ装置	5,332	102.7	21,009	99.7	5,495	104.3	26,504	100.6
	13	自動変速装置	172,474	100.6	716,563	101.0	154,531	92.3	871,094	99.4
	14	ユニバーサルジョイント	3,283	88.3	13,308	92.5	2,882	83.9	16,190	90.8
	15	プロペラシャフト	4,492	94.9	18,301	93.3	4,016	87.1	22,317	92.1
	16	車輪	7,491	99.3	32,329	98.3	6,847	93.4	39,176	97.4
	17	かじ取りハンドル	3,470	89.4	15,716	88.1	3,182	84.4	18,898	87.5
	18	ショックアブソーバ	10,290	98.9	42,814	100.5	9,757	93.1	52,571	99.0
	19	ブレーキ倍力装置	2,315	77.2	9,767	83.7	2,005	66.2	11,772	80.1
	20	ブレーキシリンダ	3,596	55.3	14,921	56.6	3,229	50.4	18,150	55.4
	21	ブレーキパイプ	3,043	103.0	11,834	107.1	2,479	100.0	14,313	105.8
	22	ブレーキシュー	2,563	94.1	10,919	94.3	2,344	87.4	13,263	93.0
	23	燃料タンク	6,944	101.2	28,628	95.7	5,960	88.3	34,588	94.4
	24	排気管及び消音器	24,898	97.2	108,001	98.4	23,097	91.3	131,098	97.1
	25	窓わく	2,347	90.5	10,727	95.2	2,393	94.8	13,120	95.2
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	6,204	79.0	29,462	87.2	5,700	74.5	35,162	84.9
	27	窓ガラス開閉装置	4,073	94.8	17,663	96.5	3,991	90.2	21,654	95.2
	28	シート	63,054	102.8	281,347	102.4	57,804	95.4	339,151	101.2
	29	スイッチ類	13,120	99.6	55,908	98.9	11,218	87.9	67,126	96.9
	30	計器類	10,698	97.4	42,967	94.9	9,462	95.8	52,429	95.1
	31	窓ふき	6,824	92.0	28,818	94.6	5,855	86.3	34,673	93.1
	32	警音器	1,345	104.7	5,468	102.3	1,221	94.9	6,689	100.9
	33	暖房装置	8,250	105.3	34,176	92.1	6,959	90.6	41,135	91.9
	34	電子式ブレーキ制御装置	14,537	97.4	61,925	99.9	12,431	78.8	74,356	95.6
	35	シートベルト	7,227	89.7	29,796	90.6	6,781	86.5	36,577	89.8
	36	エアバッグモジュール	6,818	96.6	28,479	99.6	5,902	88.0	34,381	97.4
	37	気化器・燃料噴射装置	22,010	109.3	87,347	103.7	20,809	108.3	108,156	104.6
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	33,963	98.3	141,009	98.8	30,800	89.4	171,809	97.0
	39	軸受メタル	3,787	96.8	15,783	92.7	3,458	90.4	19,241	92.3
	40	ブッシュ	2,897	105.9	11,377	111.6	2,496	91.6	13,873	107.4
	41	オイルシール	8,498	95.7	35,102	100.0	7,809	89.9	42,911	98.0
		<b>合 計</b>	<b>504,375</b>	<b>98.4</b>	<b>2,123,922</b>	<b>98.4</b>	<b>455,888</b>	<b>90.8</b>	<b>2,579,810</b>	<b>97.0</b>
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	8,345	103.9	34,401	102.3	7,033	95.5	41,434	101.1
	2	かさね板ばね	2,520	112.0	9,634	105.5	2,175	100.6	11,809	104.5
	3	つるまきばね	1,636	86.4	7,058	85.5	1,402	76.6	8,460	83.9
	4	線ばね	4,749	97.5	18,983	98.8	4,245	91.8	23,228	97.5
	5	カークローラ	23,448	98.8	101,257	99.4	20,510	87.3	121,767	97.1
	6	自動車用器具	32,624	107.0	128,606	103.7	28,533	103.0	157,139	103.6
	7	自動車用電球	919	90.5	3,730	95.1	853	89.5	4,583	94.0
	8	カーオーディオ	3,812	105.0	13,286	98.7	3,734	101.6	17,020	99.3
	9	カーナビゲーションシステム	28,104	97.8	116,394	91.8	26,659	99.8	143,053	93.2
		<b>合 計</b>	<b>106,157</b>	<b>101.5</b>	<b>433,349</b>	<b>98.4</b>	<b>95,144</b>	<b>96.6</b>	<b>528,493</b>	<b>98.1</b>

# 指標・統計

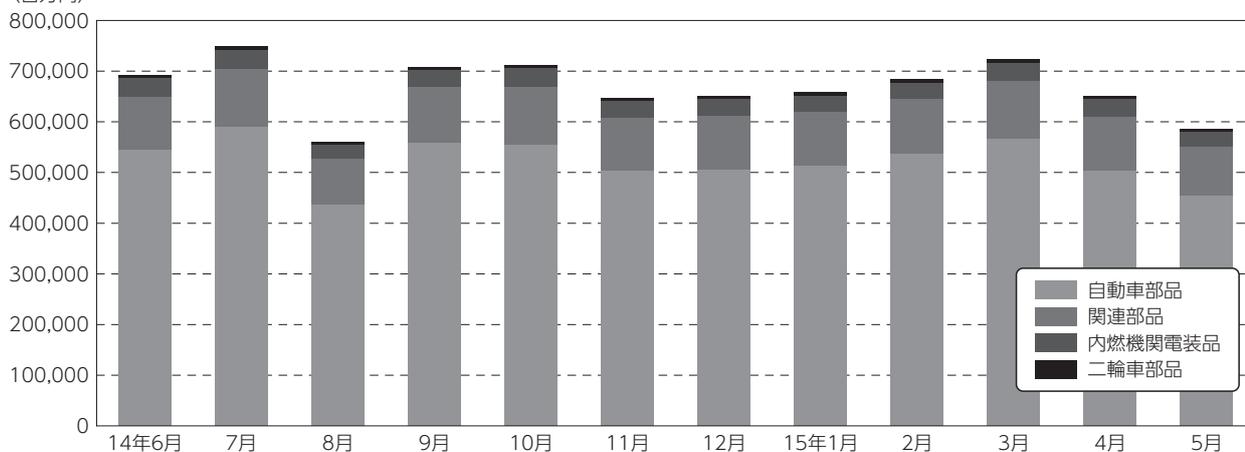
		2015. 4月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 5月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1 ダイナモ	7,108	99.7	27,165	94.4	5,993	89.8	33,158	93.5
	2 スタータ	8,297	99.5	31,916	97.8	7,853	99.2	39,769	98.1
	3 ディストリビュータ	648	95.2	2,498	98.8	568	88.2	3,066	96.6
	4 イグニッションコイル	7,159	101.3	27,377	94.6	6,335	94.0	33,712	94.5
	5 プラグ	12,497	107.6	46,757	108.5	9,699	91.1	56,456	105.0
	合計	35,709	102.5	135,713	99.8	30,448	93.3	166,161	98.5
二輪自動車 部品 (4品目)	1 気化器	795	120.5	3,426	104.4	638	97.6	4,064	103.3
	2 ショックアブソーバ	2,171	118.6	8,934	107.8	1,866	98.2	10,800	106.0
	3 計器類	1,020	92.1	4,372	87.7	990	96.7	5,362	89.2
	4 ブレーキ装置	1,743	99.8	7,541	100.1	1,487	91.4	9,028	98.6
	合計	5,729	107.2	24,273	100.8	4,981	95.7	29,254	99.9

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

- ①平成21年1月より「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。
- ②平成23年1月より「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。
- ③平成26年1月より品目の掲載順序を一部変更。
- ④平成26年1月より「エアバッグモジュール」の定義を変更。  
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。  
接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。
- ⑤平成26年1月より「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

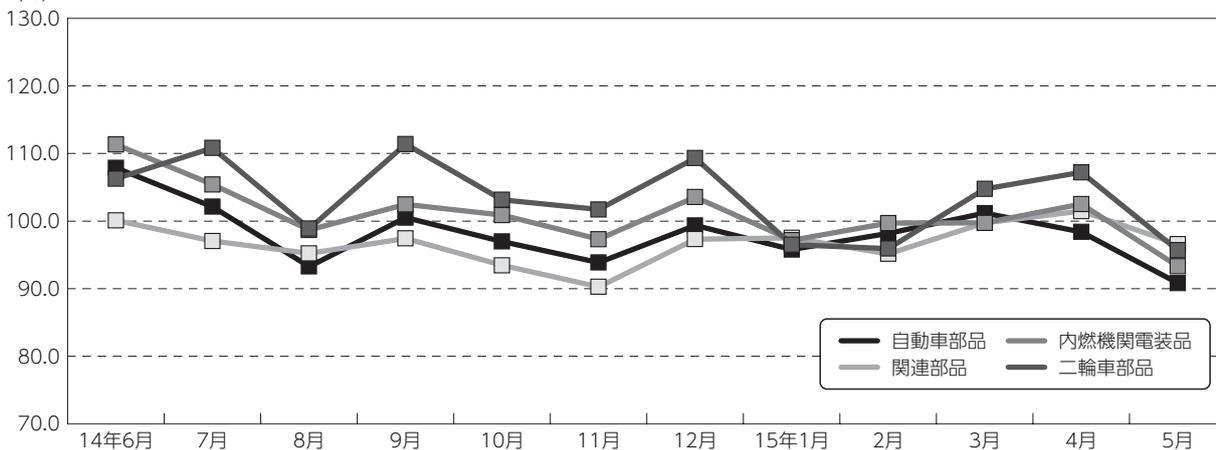
## ■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



## ■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



## 目次

- 07 | **巻頭言**  
副会長・吉田 夢佳志
- 09 | **特集** **世界標準を加速する  
メガサプライヤーの誕生と  
日本オリジナリティ**
- 13 | **DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.5**  
**米国の利上げとその世界経済への影響**  
日本政策投資銀行
- 15 | **工業会業務レポート・スケジュール**
- 20 | **北米事務所だより Vol.114**
- 21 | **委員会部会だより**  
**中小企業施策委員会**  
**特色ある技術を多方面で紹介  
中小会員企業を支援**  
委員長 石川 伸一郎
- 23 | **会員企業紹介**  
**太平洋精工株式会社**
- 25 | **会員トピックス**  
一般社団法人 3Dデータを活用する会・3D-GAN  
代表理事 相馬 達也さん
- 26 | **日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト**
- 29 | **指標・統計**

平成27年9月15日発行  
(隔月1回15日発行)

### ■発行所

一般社団法人  
日本自動車部品工業会  
〒108-0074  
東京都港区高輪1-16-15  
電話 03-3445-4212  
FAX 03-3447-5372

### ■編集

日刊自動車新聞社  
〒105-0012  
東京都港区芝大門1-10-11  
芝大門センタービル3階  
電話 03-5777-2351(代表)

### ■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

### 訂正

2015年7・8月号32ページの「平成27年春の叙勲・褒章」の記事で、厚生労働省の褒章授与式は、5月15日(金)開催の誤りにつき訂正します。

JAPIA会員企業様向け

最新のTS16949セミナーの情報・案内等は…

[www.lapj.co.jp](http://www.lapj.co.jp) まで

ISO教育コンサルティング  
株式会社エルエーピー

**LAP** ISO  
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

# イワタボルトの グローバルネットワーク



## 国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

## 海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・  
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ・カナダ

## 認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA,INC	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTELTD	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTELTD	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TUV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TUV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TUV NORD

# 【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

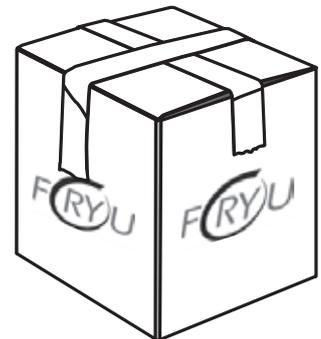
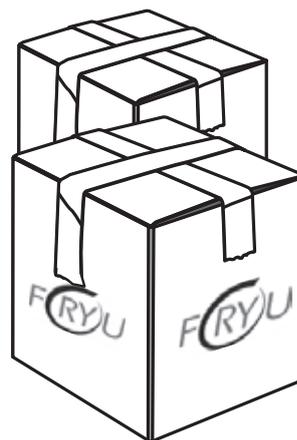
http://www.iwatabolt.co.jp/

日本から中国へ、中国から日本へ、  
航空貨物より速く、  
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、  
¥10,000より

フォーユーエクスプレス

日本    
中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

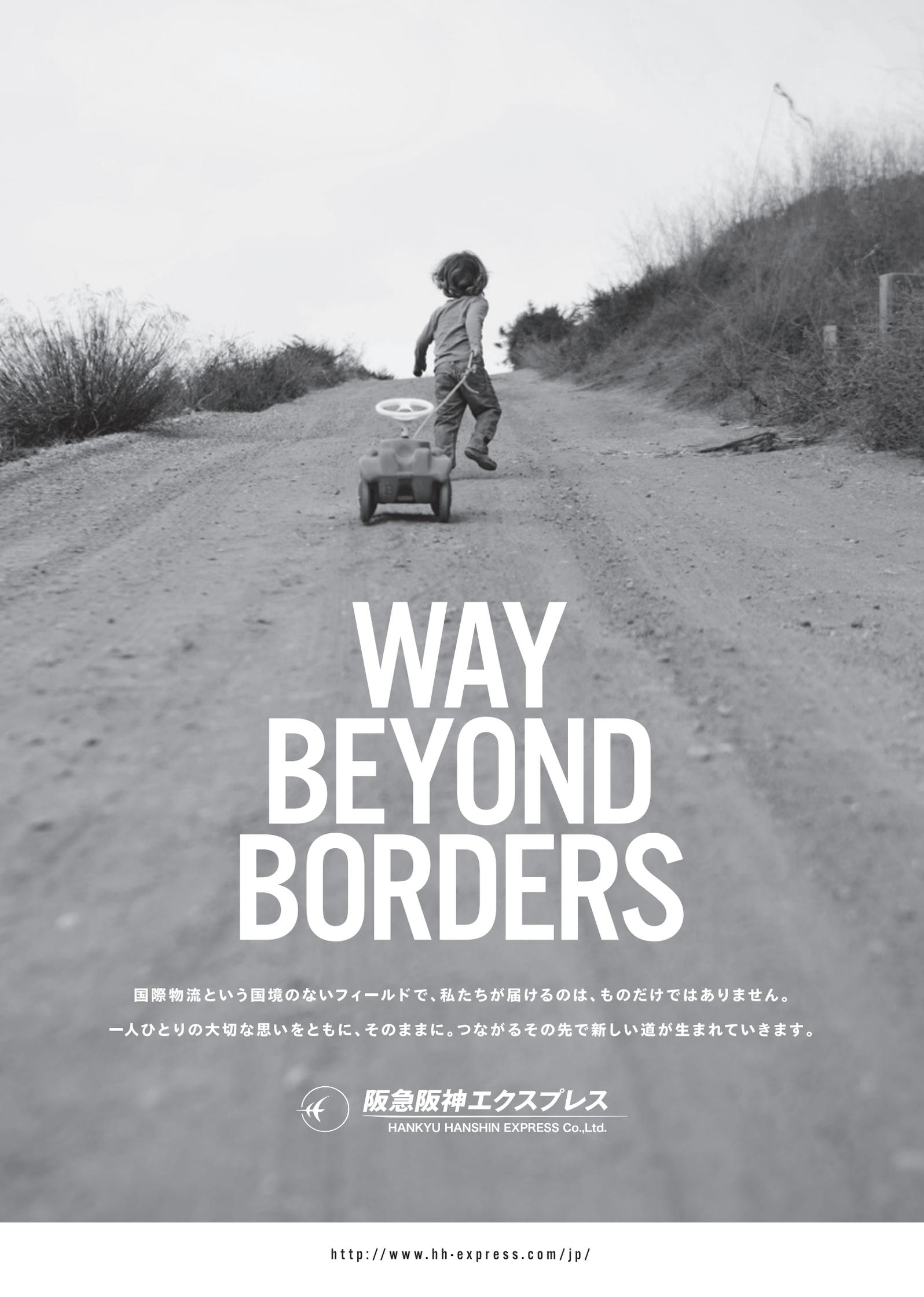
安心、確実、丁寧な  
ハンドキャリーで  
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp  
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/



フォーユーエクスプレス

検索

A black and white photograph of a child with long hair, seen from behind, pushing a toy car on a dirt path. The path leads towards a horizon with some brush and a flag on a pole in the distance. The overall mood is one of exploration and discovery.

# WAY BEYOND BORDERS

国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。  
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。



**阪急阪神エクスプレス**

HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.

もっとワクワクする明日へ

アイシンの歴史は、挑戦の歴史。

成功と失敗を繰り返しながら、

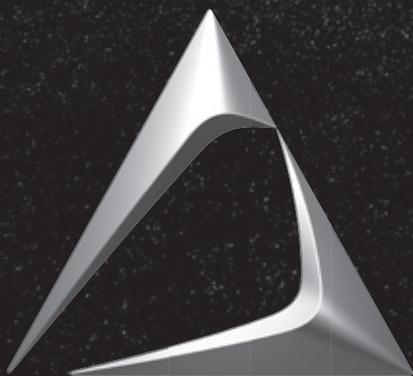
技術を磨き、品質を究め、

めざすのは、かけがえのない存在。

豊かでワクワクする未来を届けるために、

アイシンの挑戦は終わらない。

FOR  
A BETTER  
TOMORROW



*For a Better Tomorrow*

**AISIN GROUP**

Thank you!



2015年9月1日、アイシングループは50周年を迎えました。

これを機にアイシングループの新スローガン「For a Better Tomorrow」を策定、あわせてシンボルマーク、ロゴも刷新しました。グループのチカラを合わせて未来へ向かいます。